

巻頭言

現状の先にあるビジョンを持つ  
会長就任挨拶

同窓会会長 高橋 伸治  
教育後援会会長 今村 泰治

5 4

特集 1

大学改革10年間の取り組みとこれから  
戦略的な改革・成長で  
千葉商科大学の未来を拓く

学校法人千葉学園理事長

内田 茂男

6

特集 2

第2期中期経営計画の成果について  
教育・研究・社会連携領域／学生支援と環境整備領域／研究支援と環境整備領域／入試・キャリア領域／広報・ブランディング領域／経営基盤領域／高大連携領域／付属高等学校領域

人間社会学部准教授

小口 広太

36

ゼミ紹介

食の消費者から当事者へ

人間社会学部准教授

小口 広太

36

学生活動紹介

体育会 弓道部

商経学部商学科3年

宗形 祥大

37

文化団体連合会 写真部

政策情報学部3年

清末 斉美

38

千葉商科大学マッテ12024

サービス創造学部3年

綿引 翔琉

40

2028年  
千葉商科大学  
創立100周年

記念事業の基本方針と推進体制について  
記念誌分科会からのお知らせ／広報関連分科会からのお知らせ  
創立100周年にむけて

社会連携推進課

伊藤 雅敏

44

第4回「硬式野球部の栄光」

社会連携推進課

伊藤 雅敏

44

■ ニュース・イベント

遠藤隆吉研究所が「家学の書」を発行／ほか

国際センター長

橋本 隆子

46

■ 国際センターニュース

グローバルな教育環境を実現する留学生クラス

国際センター長

橋本 隆子

48

■ キャリア支援センターニュース

Everything to live a happy life  
—すべてが、幸せな人生を送るために—

キャリア支援センター長

川 瀬 功

52

CUCULレポート

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ソーラーシェアリングの農地で育った「さつまいも」を限定販売</li> <li>■ 地域連携推進センターニュース</li> <li>■ CUCキッズ大学2024サマースクールの開催／ほか</li> <li>■ The University DININGレポート</li> <li>■ UD LIVE〜Sparkling Note〜／ほか</li> <li>■ ライブラリーニュース</li> </ul>	56	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第9回書評シテスト課題図書展示／遠藤隆吉直筆「家学の書」公開イベント</li> <li>■ 文化団体連合会・体育会所属各部の活動近況</li> <li>■ 千葉商科大学 寄付者芳名録(2023年度)</li> </ul>	57	
<p><b>教育後援会活動</b></p>	<p>教育後援会活動報告／ほか</p>	68
<p><b>活躍する卒業生</b></p>	<p>あれから30年</p>	74
<p><b>同窓会活動</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本部からの報告</li> <li>■ 支部からの報告</li> <li>■ 同期会からの報告／OBからの報告</li> <li>■ 同窓生のお宿・お店紹介「隠れ家イタリアン エノテカガルビーノ」</li> </ul> <p>株式会社サトー印刷 代表取締役 CUC経営者会議 常任幹事</p> <p>佐藤 大輔</p> <p>広報・十委員会 北海道／福島県／茨城県／埼玉県／千葉県／東京都／ 神奈川県／富山県／香川県／高知県／大分県 42会／46会／50会／栗山下宿会／鳳雛会／瑞穂会</p>	78
<p><b>CUC経営者会議</b></p>	<p>CUC経営者会議ニュース</p> <p>新規会員について／2024年度総会を開催／ほか</p>	98
<p><b>随筆</b></p>	<p>霧のまちモスクワ、そしてサントクトペルブルグ</p> <p>昭和39年 商経学部経済学科卒 商学研究科教授</p> <p>牧野 靖信 秋田 舞美</p>	105
<p><b>著書紹介</b></p>	<p>「会計システム理論」</p> <p>著者…出口弘</p> <p>商経学部教授</p> <p>出口 弘</p>	110
<p>▼第54期同窓会維持会費等納入者一覧 111</p> <p>▼同窓会役員および支部事務局一覧 112</p> <p>▼編集後記 114</p>		

# 現状の先にあるビジョンを持つ

高橋 伸治 ● 同窓会 会長  
(昭52商)



歴史に残るコロナパンデミックの影響によって社会は

大きく変わってしまいました。技術開発が進み、新しい動きが「龍が空から舞い降りてくる」ように世界を覆っています。いかなる組織でも変化を当然として、自ら変化を生み出さなければならぬ時代を迎えています。そのなかで、これからの日本は劇的な変化が次から次へと起こる社会であることはまちがいないでしょう。「変化を機会と見るか」と「変化を危険と見るか」の差は、これからの人生を大きく左右します。母校、千葉商科大学も時代の流れを的確につかみ、大きく変わろうとしています。また、少子高齢化時代に突入した日本の生産年齢人口は10年間で1割ずつ減り読けることが確実と報告されています。全体の1割はよく考えれば、中小零細企業では2割以上の減少を意味します。戦後復興から日本が求め続けた低賃金で働く労働者、地方の出稼ぎ労働者、女性、高齢者、外国人労働者はもう今までの考え方では集めることもできません。日本全体の経済的な魅力は残念ながら、薄れていると思います。いつの間にか、先進国の中で労働者の賃金は最低水準になってしまいました。これからの企業経営では継続的な賃金上昇を計画に盛り込む必要に迫られています。貧しくなった日本で大きな目標を

設定することが大切だと考えています。

私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織及び会員の発展・充実並びに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。時代の変化に対して、私たち同窓会は改革のときを迎えています。人生のライフスタイルが大きく変わり、生涯現役時代に対応した組織にしなければなりません。私たち同窓会は、すべての同窓生が集い、「高いコミュニケーション能力を養う場所」にしなければなりません。大切なことは、みんなで作り上げるといふ視点です。皆さんが持っているアイデアを実現させていくためには仲間が必要で、人脈がアイデアをもたらしにくれるのです。

千葉商科大学も大きな一歩を踏み出しました。私たち同窓会も大改革を実現し、大学当局、大学の先生たちとの心の距離を短くして大きく行動を起こすときです。「行動」することで、さまざまな「刺激」を受け、「思考」が深まります。私たちも、小さな一歩がないと大きな夢にはたどり着けません。何事においても今すぐできることは、いっぱいあると思います。みんなの力で新しい時代をつくりましょう。



千葉商科大学  
同窓会  
公式Webサイト  
二次元コード

# あれから30年

## 佐藤 大輔

株式会社サトー印刷 代表取締役  
CUC 経営者会議 常任幹事  
平成7年 商経学部経営学科卒業



私は昭和47年1月に東京都江戸川区に生まれました。祖父の代から印刷業を営み私で3代目、2030年に創立100年を迎えます。100年企業といえは聞こえは良いですが、親子3代家族で細々と地域の印刷物を小さな機械で印刷をして生計を立てておりました。

初代の祖父は大の博打好き。隣が警察署だったのでがお構いなしで賭場を開いてお縄になり、隣の署で留置されることしばしば。

2代目の父は性格が真逆で真面目。当時新しく日本に導入されたオフセット印刷を都立工芸高校印刷科にて学び、いち早く自社に取り入れました。高度経済成長の後押しもあり業績も上がっていく中、個人から有限、そして株式へと法人化して設備投資や組織化を進め、現在の礎を築きました。

私は弟と2人兄弟の長男として生まれ、物心つく前から3代目としての洗脳を受けました。保育園の卒園アル



バムの「将来の夢」に園児だった自分が「印刷屋さん」と書いていたのを大人になってから見たときには大変なショックを受けました。

地元の公立小・中学校を卒業後、入った高校も地元の関東第一高校、男子校です。選んだ理由も自宅から近いから。徒歩10分でした。普通科の特進コースに入学したのですが一浪してしまい、19歳で千葉商科大学に何とか入学を果たすことができました。やはり自宅から一番近い大学でした。通学はバイクで15分。地元から離れたことがありません。

高校が男子校でさらに1年間暗く惨めな浪人生活を過ごしたために、人一倍「キャンパスライフ」に憧れを抱いていたのですが、浪人生活が暗すぎたために明るい大学生活に溶け込むことができず、最初のうちは孤立していました。オリエンテーション期間中に、華やかなサークルに勧誘してもらいたくてキャンパスをウロチョロするのですが新入生に見えないのか誰も声をかけてくれず。仕方がないのでオリエンテーションのガイドブックをこれ見よがしに広げてベンチに座っておりましたが、それでも声をかけてくれませんでした。



ある日、クラスで隣の人から「サークル決まった？」と声をかけられました。どこからも声をかけられない旨を告げたところ「茶道部どう？」と言われました。その時は「はあ、茶道？」と思いましたが、その人から「この大学って女子いないじゃん。女子と一緒にいたら吹奏楽か茶道だよ！これから茶道部の飲み会あるから一緒にこうよ」と誘われホイホイついて行ってしまいました。確かに女子がたくさんいたのでそのまま入部。

男子20名以上、女子20名以上、男女比率がほぼ1対1の素晴らしい部活動だったので、1年生、2年生、3年生と時が過ぎて何も起こらず、結局彼女ができたのが4年生の冬。その彼女は当時1年生で、今の奥さんです。

3年生の時にバブルがはじけ、就職氷河期となってしまったためどこにも就職が決まらず、父から「もういいからウチに入れ」と言われそのまま自社に入りました。

まずは工場で機械をおぼえ、職人としてのスキルを徹底的に叩き込まれた後、営業に移りました。そのころはインターネットが開始された時代でした。コンピューターが飛躍的に進歩し、自社でもデザイン部門、事務・経理部



門など、あらゆるものがデジタル化していくことになりました。

社内に若い人は私一人しかいないので必然的にデジタル化への対応は私の役目となり、通常業務を終えた後、夜は毎晩パソコンと向かい合って奮闘しておりました。お陰で弊社は周辺の同業他社よりもいち早くデジタル化を成功させたと自負しております。

しかし時代が進むにつれてパソコンはどんどん進歩し、かつ操作も飛躍的に簡単になり、誰でも簡単に使えるようになってしまいました。

祖父の代は活版印刷、父の代でオフセット、そして私が見たデジタルと時代に合わせて変化させてきましたが、デジタル化の先は悲しいことにペーパーレス化の時代になってしまいました。

斜陽産業へととなっていく印刷業界の中で力を入れたのがデザインです。デザイン力を強化し、そのデータをもとに紙媒体以外もさまざまな品目を受注できるようにしました。布、プラスチック、金属、WEB、動画などなどです。

新しい分野や技術を取り入れ、時代の流れに合ったビ

ジネスを展開していく中で、最も大切だと感じたのは「人とのつながり」です。私の場合、地元の法人会など経営者の会の友人たちでした。先輩たちからはさまざまな事を教えてもらい、同世代の仲間たちとは切磋琢磨しあう。憧れやライバル心の中で少しずつ成長できたのかなと思っております。

しかしこれも思い返してみると、千葉商科大学在学時代に培ったコミュニケーション力があつたのだと思います。あの4年間でさまざまな人たちと交流し、さまざまな経験をしてきたことがどれほど得難いものだったかと思えます。

あれから30年、今また同窓会やCUC経営者会議で商大とのつながりが深まってまいりました。これからの人生、これからのビジネス、また商大を通じて新しい道が開けていくのではないかと楽しみでなりません。

## 随筆

### 霧のまちモスクワ、そして サンクトペテルブルク

● 牧野靖信(昭39 経済)

ロシア、何という響きだ。カーテンが取り外されてからかなり経つが、一体どんな外国なのだろう。先ずは自分の目で、という気持ちは正にジェームス・ボンドというところか。

アエロフロート・ロシア航空に搭乗したのが今から5年前の2019年9月。座席の前のポケットには、何とボーイング777の説明書が入っていた。ここからロシアが始まっているはずだが、そういえば忙しく歩き廻っている客室乗務員は欧米人と変わらない。スタイルも想像よりスマートだ。そして私の顔を見てくれている。眼で「何に？」、そうそう「ワイン、ワイン」と口が動いていた。

約10時間後の同日の午後4時モスクワに着く。旅気分全開でターミナルビルに入る。ムツと煙草の臭いがキツイ。

霧雨の中バスに移動する。現地ガイドの女性が「私の名前はタチアナです。これからホテルまで30km走ります。」イヤホンガイドからはわかりにくい日本語が流れてくる。分類で公務員だから知的労働者ということか。バスは大通りに出る。「日本の東海道はこちらではレニングラード通りです。そして交差点ごとに「今は、カンパチです。」「今のは、カンナナです。」と笑いを誘う。「皆さまの降りた空港はモスクワ4空港のひとつで、シエレメチエボ国際空港です。」

二日目モスクワ(人口1200万人)の市内ツアーに入る。道中は広く片面5車線、建物は古風な石造りが多く、外装は簡素で落ち着いた佇まい。ガス会社のタワーはなぜか欧米風。トロリーバスが目立つ大きさで、多くの車の中を縫うように走る。石造りの建物は



王朝が使い、共産党が使い、そして今、連邦の官庁として使っている。

モスクワ大学に着く。キャンパスは上野公園に似て市民が多く歩いている。校舎の前には王朝風の門が建



ロシア・赤の広場前



ピョートル大帝の青銅騎士像前

つ。銅像は2体並び、高さは15mくらいで、一人は鋏を持つ農夫。もう一人は鶴はしを持った労働者で、レニンやトルストイではない。 Gum百貨店を経て茶色くて背の高い壁のクレムリンが見えてくる。赤の広場で

す。クレムリンは「城塞」の意味です。また赤は古代スラブ語で「美しい」の意味を持つと言い、広場の起源は15世紀末と言い、日本の楽市楽座の発生時期と似ている。

この日の夕食後、サーカス小屋に向向く。6階建てくらいの高さで内は吹き抜けになっており、客席はスタジアム風になっている。天井から2本のブランコが垂れ下がっており、そのブランコを握りしめたレオタードで身を引き締めた均整のとれた男女の身体が宙を舞う。次第にスピードを上げ中間で一体となる。下にはマットは無い。両手で受け、そしてブランコめがけて放つ。唾をのむ。ただ見とれるばかり。休む間も無く、下には虎がライオンがチーターがピューマがと8頭くらいがぞろぞろと続いて来ては台の上に2本の後ろ脚で立つ。

ガオーと、使い手の女性の背丈の3倍くらいか。時折ピシッと鞭の音が響く。しゃがむ者、その上を飛び越える者、火の輪をくぐったりして出て来た口に戻っていく。

翌日スタリなど周辺200km圏の寺院、修道院などを見る。13世紀頃モンゴルに征服されていた時期が

あったとは思えない街並みは欧州そのものだった。

5日目サントペテルブルクには飛行機で移動する。約2時間、人口約500万人は横浜に川崎を足した位か。現地のガイドさんの風貌はフランスの女優さんというところ。声は高くて日本語が素晴らしい。つい親しみを感じてしまい、2日間彼女との会話を楽しむ。この日の夕方5時にレストランで夕食、その後7時に「白鳥の湖」の鑑賞とあいなる。劇場内は壮麗で落ち着いた雰囲気。

王女オデットを人間に戻すために王子ジークフリートが悪魔と激しく格闘するさまは舞台一杯にとび、そして左端から右端まで走る。床に降りた時の音、また足と足を擦る音の臨場感がかぶりつきのお陰か。そして舞台の手前にあるオーケストラボックスは演奏者で溢れ、私の席の少し前にバイオリンの女性が懸命に奏でてくれる。

6日目、エカテリーナ宮殿を見た後、私はガイドさんに尋ねました。「ところでゴルバチョフさんはお元気ですか、どの辺にお住いなんですか」と。ところが中野信子さんに似た笑顔の素敵な顔は、一瞬にして眼は丸く、口元はムッと閉まり、声は暫く発しなかった。暫

くして答えてくれた。「突然、答えられない事を質問するので」と。それから、この素敵なガイドさんに近づ

けず、彼女との悲しい別れであった。

\*  
\*  
\*

## 「良識」に寄せて

商学研究科教授 ● 秋田 舞美

中小企業診断士／経営コンサルタント

# 参

議院の通称「良識の府」。この「良識」という言葉を辞書で引くと、「偏らず適切・健全な考え方」と

ありました。解散がなく、6年間の任期が保障されていることから、長期的で公平、良識ある判断を期待された言葉です。奇しくも日本で初の普通選挙（※1）が行われた1928年に、巣鴨高等商業学校として産声をあげたのが今の千葉商科大学であり、創立100周年を目前として制定された大学ステートメントは「100年生きる良識を」。

さて話は移りまして自己紹介をさせていただくと、

私は26歳で中小企業診断士の資格を取得し、マーケティングを中心とした中小企業の経営コンサルタントとして現在20年目になります。また縁あって10年ほど前から、土日の社会人向けコースである千葉商科大学大学院の中小企業診断士養成課程にて教鞭をとっております。

中小企業と大企業の大きな違いのひとつは、大企業は株主を含めた多くの関係者のメリットのために、どうしても企業拡大や効率性を評価基軸とせざるを得ないこと。一方、中小企業の経営には思いや信念、経営者の個性が反映されることが挙げられます。味を守るために店舗を増やさないラーメン店、伝統文化を守るために高価な素材を仕入れる家具店、廃棄衣料品を減らすために新作よりも技術力のいるリメイクに敢えて取り組むアパレル製造業。このような取り組みは短